

岐にわたるエイズ問題をカバーし、アジアの状況を概観するのに役に立つものであった。アジアのエイズ流行状況（Bridger氏）、分子疫学の証拠から見たさまざまな国の流行の関連性（武部氏）、HIV治療薬耐性ウイルスがHIV治療をしたことのない感染者から発見された事例（山本氏）、カンボジアでの流行抑制の成功例（Hor氏）、深刻さを増すインドの状況（Mukhopadhyaya氏）、アジア・太平洋のNGOの活動（Chong氏）についての話題が提起された後、会場の参加者を含めて活発な議論が行われた。国境を越えた人の動きが増加する現在、日本でのHIV流行は、他のアジア諸国での流行と無縁ではいられないことが懸念される。日本のリーダーシップが望まれている。

（小松隆一記）

## 東アジア地域人口高齢化会議

この会議は、10月21日から26日の間、東京と小田原市において開催された「東アジア地域人口高齢化会議（主催：エイジング総合研究センター）」である。会議では、第一のテーマセッションとして、日本、中国、韓国、台湾ならびにシンガポールから、各国の最新の人口センサスや人口動態統計に基づく少子化ならびに人口高齢化の分析結果が報告された。とくにこれらの国々では出生率低下が顕著で上海、韓国、台湾では日本と同様に未婚率の急速な上昇と合計特殊出生率の急激な低下が起きており、少子化問題が人口高齢化の新たな局面として共通に存在していることが明らかにされた。第二のテーマセッションとして、人口高齢化と世帯・家族等の社会変化に関する研究成果が報告された。とくに高齢者の就労に関しては、東アジアの共通性として、高齢者の高い就労率の背景が議論され、欧米の低い就労率との対比の中で、高齢化社会における東アジア的生活文化の意義が強く認識された。そして、第三のテーマとして、医療保険等の制度改革について、とくにシンガポールで導入された積み立て方式による制度に関して報告とその有効性に関するディスカッションが行われた。全体討論では、人口高齢化が文化的に似通ったバックグラウンドを持つ東アジア地域の比較研究から、今後の高齢化対策や適的な制度のあり方を探ることの重要性が再認識された。

（高橋重郷記）

## アジア太平洋人口会議および準備会議

第5回アジア太平洋人口会議の準備会議（10月29日～11月1日）、ならびに本会議（12月12日～17日）がタイの首都バンコクで開催された。この会議は、国連が10年毎に開催する国際人口開発会議に先立ち開催される地域会議で、アジア太平洋地域の国が人口と開発に関する基本的な考え方を取りまとめ、世界会議に向けた合意形成を行う会議であった。

準備会議では、カイロ会議の基本的な考え方である「性と生殖に関する権利」等の従来の行動計画の上に作成された事務局作成の基本案と行動計画について各国の実務家レベルによる検討を行い、本会議に因る原案が検討された。

準備会議においては事務局から行動計画案の前文と行動計画案がセンテンス毎に報告され、各国代表から文章表記の承認・非承認の検討が行われたが、審議が進むに従い米国政府とそれ以外の国々との間で、深刻な対立点が明らかになり、準備会合では本会議に進むための合意文書の作成にまで至らなかった。その対立点は、米国政府代表が「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」（性と生殖に関する健康／権利）と「思春期のリプロダクティブ・ヘルス」に関する行動計画案の表現が、「中絶」や「未成年の性行動」を助長すると言う理由から文書全体の表現から「リプロダクティブ・ヘルス／ラ

イツ」等の言葉を全て削除するように求めたことによる。国内の宗教的保守派（プロライフ派）を基盤とするブッシュ政権は、人口分野に関しては、1994年のカイロ会議において世界で共有された「リプロダクティブヘルス／ライツ」等のカイロ行動計画の考え方に強く反対しており、この会議がブッシュ政権の主張を通すための戦場となった。

12月になって開催された本会議では、準備会で合意に達しなかった行動計画前文と行動計画案が引き続き本会議と平行して作業部会で審議された。米国の主張は変わらず、米国を除く各国代表団は、カイロ行動計画の延長線上でまとめられた事務局案を一致して支持するという対立図式が会議最終日前日まで続いたが、とくに「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」と「思春期のリプロダクティブ・ヘルス」の二つの行動計画の部分に関しては米国政府の主張により採決によって文書が決められることになった。そして、会議最終日、全会一致を慣例とするこれまでの会議とは異なり、域内行動計画前文と行動計画の一部が採決によって米国案が否決され、最終的に合意文書が承認された。

（高橋重郷記）

## JICA「ニカラグァ国グラナダ地域保健強化プロジェクト」

8月4日から10月8日まで短期専門家としてJICAのニカラグァ国グラナダ地域保健強化プロジェクト（通称PROGRA）に参加し、グラナダ県の地域保健（SILAIS）に対して技術協力活動を実施してきた。PROGRAは、グラナダ県住民の健康状態の改善に資するべく、住民とりわけ5歳未満の子供と妊娠可能期の女性がより質の高いサービスを享受・利用できることをプロジェクト目標として、2000年12月より4年間の予定で実施されている。現在、カウンターパートであるSILAISの適切な医療機関への紹介制度の改善・強化、母子保健、リプロダクティブヘルス、環境衛生などを中心とした活動を推進してきている。

今回、今後のSILAISの活動に役立てるため、青少年のリプロダクティブヘルス及びHIV/エイズ関連の問題について学校をベースに調査を実施することになった。青少年に対する保健活動の強化を通じて、十代の妊娠の減少、性病やHIV感染の予防が期待できる。十代の妊娠を減少させることは、乳幼児と妊産婦の死亡率を低下させることにもつながる。

調査の結果、初体験の年齢は男子生徒では、10歳以下だったという回答が若干名あり、男女とも13歳くらいから増加している。コンドームの使用率は高くなく、妊娠、性病のリスクは常に付きまわっているといえる。調査直後に実施した「お話し会（チャルラ）」では、自分の性行動を振り返った直後でもあり、生徒はみな様々な疑問をぶつけてきた。このときの知識は彼らの中に効果的に吸収されたに違いない。

教育省担当者、校長、生徒、保健所担当者らを招いて行った結果報告会では、白熱した議論が起きた。このような構成での会合そのものがめったにない貴重な機会だったようだ。13歳くらいで妊娠する子がいることや、性行動が活発な生徒がいることはみなすでに気づいていたが、性行動やそれに伴うリスクが実際どの程度かを数値としてあらためて目のあたりにし、誰も無視できない問題となった。

（小松隆一記）

## 韓国人口学会主催「東アジアの高齢化：課題と対応」に関する国際会議

2002年11月30日（土）、韓国の延世大学（ソウル市）において韓国人口学会主催の「東アジアの高